

AKIBA HOLDINGS

2025年3月期

第1四半期決算説明資料

2024年8月9日



1. トピックス・概況
2. 2025年3月期第1四半期決算
3. 2025年3月期業績予想
4. セグメント別概況

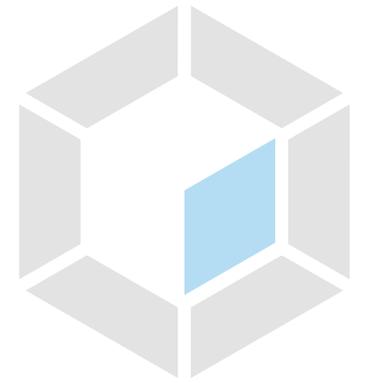
5. 参考資料

AKIBAホールディングスグループ 会社説明

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況



売上高は堅調に推移、将来成長に備えた事業基盤強化に向けた投資により販管費が増加したものの各段階利益は計画どおりに推移

売上高は堅調に推移

経済環境の不透明さから事業環境が軟調であるものの、計画どおりに推移

各段階利益、計画どおり推移

成長投資による販管費の増加があるものの各段階利益においては計画どおりに推移

経済環境の変化に対応する事業基盤の強化を推進

経済環境・社会環境の変化から不透明感が存在するため、先行きに対し注視が必要なものの、環境変化に対応したビジネスモデルの組み換えを実施し、将来の成長に備え、安定した収益の獲得が可能な骨太な事業基盤の整備を進め、新規商材の投入、M&Aを推進するほか、通信建設テック事業において新規分野に進出するなど、収益力の強化を進めております

売上高及び各段階利益ともに計画どおりに推移 将来成長に向けた投資と事業基盤強化を継続

2025年3月期第1四半期においては、円安基調と経済環境の先行き不透明感から不安定な事業環境が継続しております。

このような中、売上高については堅調に確保、事業基盤強化に向けた成長投資の実行により販管費が増加したものの各段階利益は計画どおりの推移となっております。

2025年3月期の通期予想については、事業規模の拡大から増収と計画するものの、成長投資の継続の方針から、営業利益、経常利益ともに減益と予想しております。

事業の成長を図るための投資を継続することにより、2025年3月期も一時的な減益は継続するものの、新規商材の投入、M&A等による成長事業への戦略投資、事業執行体制の整備等を推進することにより、事業基盤の強化を継続し、収益力の強化を図ってまいります。

	2024/3 1 Q実績	2025/3 1 Q実績	前期比	2025/3 予想	前期比
売上高	3,828	3,644	95.2%	17,500	110.4%
営業利益	237	38	16.3%	750	89.4%
経常利益	224	31	14.2%	750	88.8%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	143	27	18.9%	500	170.9%
一株当たり 四半期純利益	15.59円	2.95円		54.43円	

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

02

2025年3月期第1四半期決算





メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット

株式会社リーバン

株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等
※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化

HPC
(高性能科学技術計算機)



株式会社HPCテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他
(旅館ほか)

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

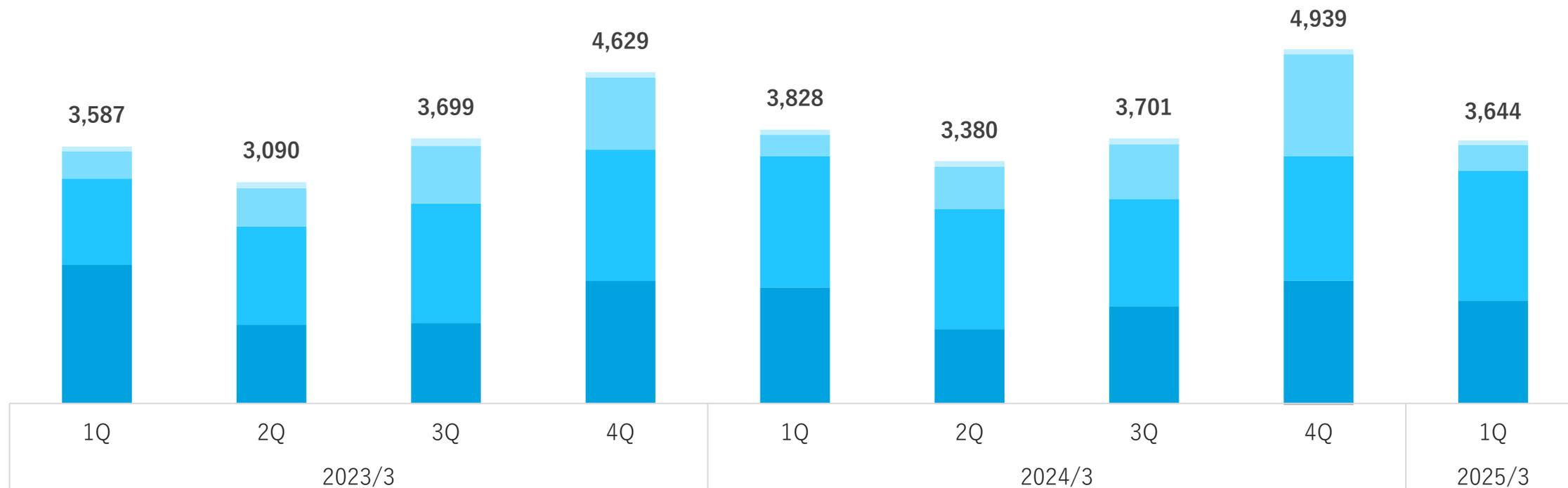
売上高は堅調に確保、事業基盤強化に向けた投資による 販管費の増加があるものの計画どおりに推移

	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	トピックス
連結	3,644	95.2%	38	16.3%	
メモリ・PC関連デバイス ・IoT	1,439	88.7%	△55	—	円安や原価の高騰によりメモリ関連製品の利益率が低下
通信建設テック	1,781	97.0%	61	36.5%	新規案件の獲得により売上高は堅調に推移したものの、大型案件の完了により利益率は減少
HPC (高性能科学技術計算機)	362	120.7%	25	71.4%	売上高は前期を上回ったものの、販管費増等の要因により営業利益は減益
その他 (旅館ほか)	61	89.6%	7	24.3%	(全社費用等の調整額を含む)

低調なメモリ需要と大型案件の終了があるものの前年同期水準を確保

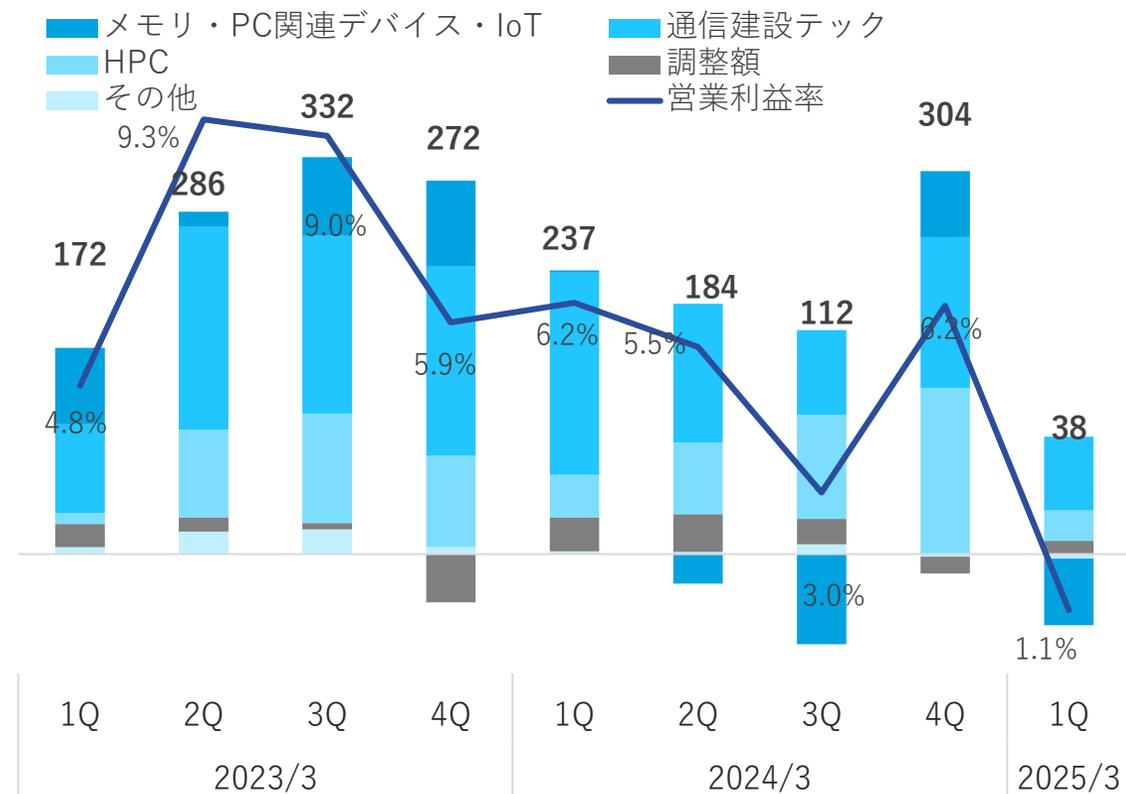
連結売上高

■ メモリ・PC関連デバイス・IoT ■ 通信建設テック ■ HPC ■ その他 ■ 調整額

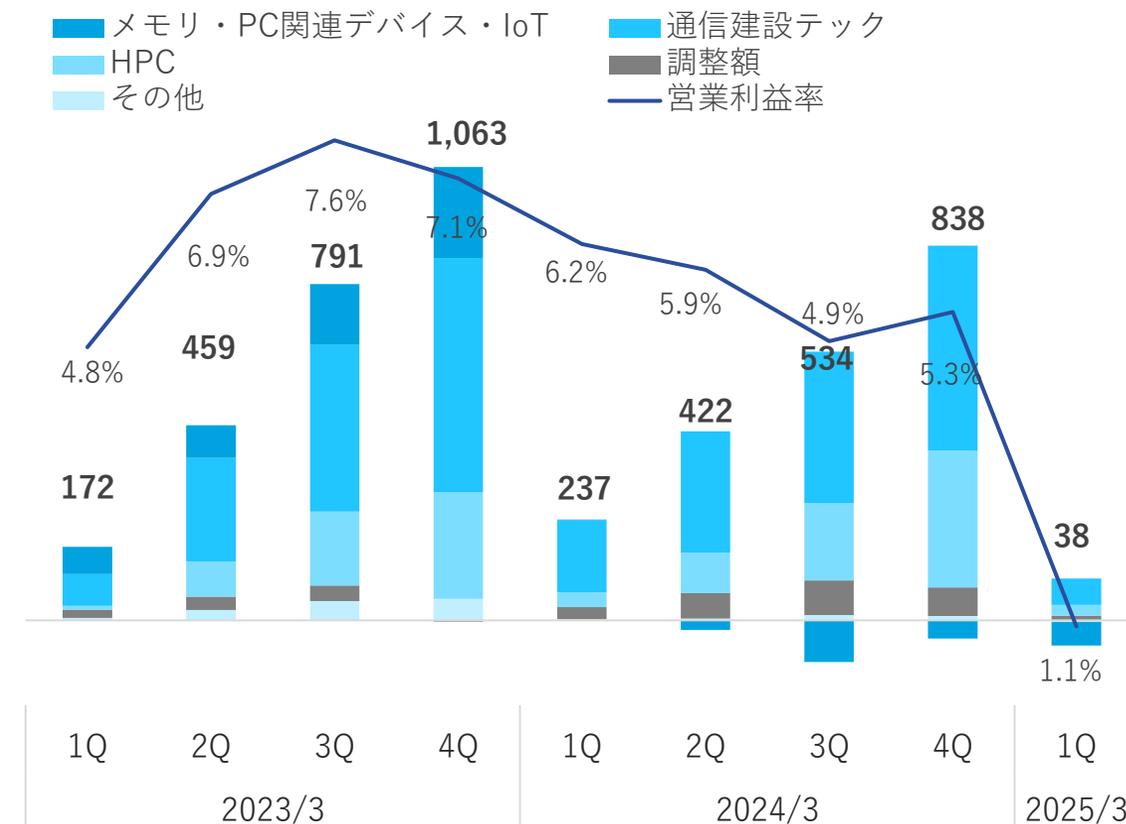


事業基盤強化に向けた人材確保及び設備投資等による販管費の増加があるものの計画どおりに推移

連結営業利益 会計期間



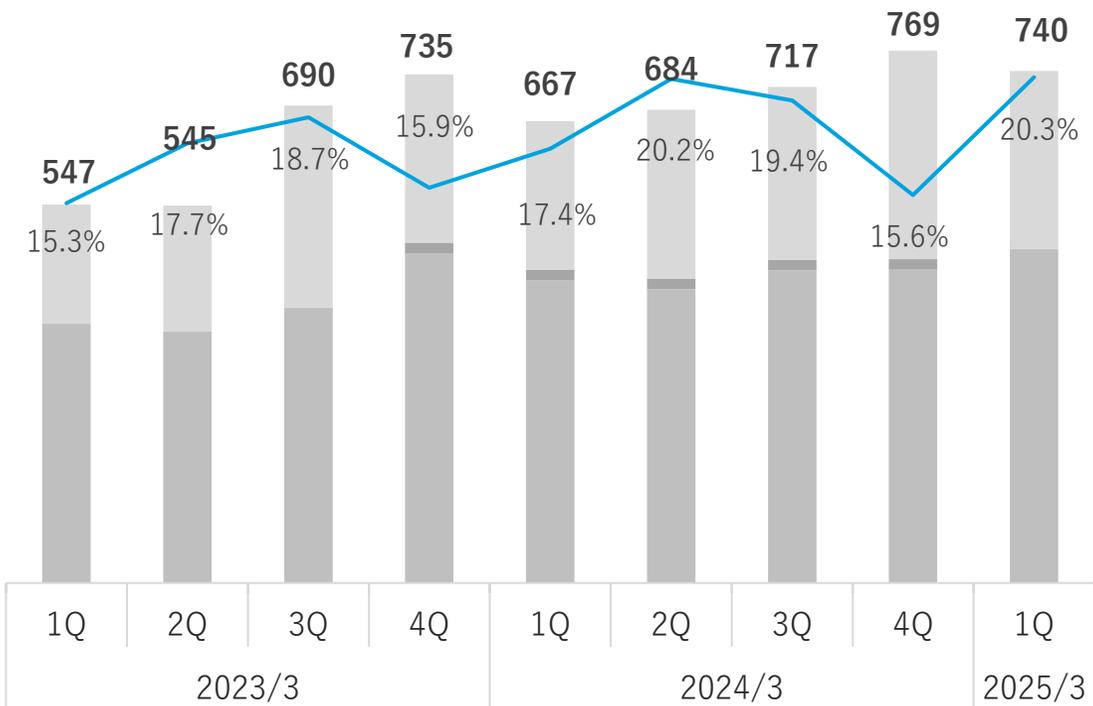
連結営業利益 累計期間



事業の成長力確保のため、人材の確保を促進

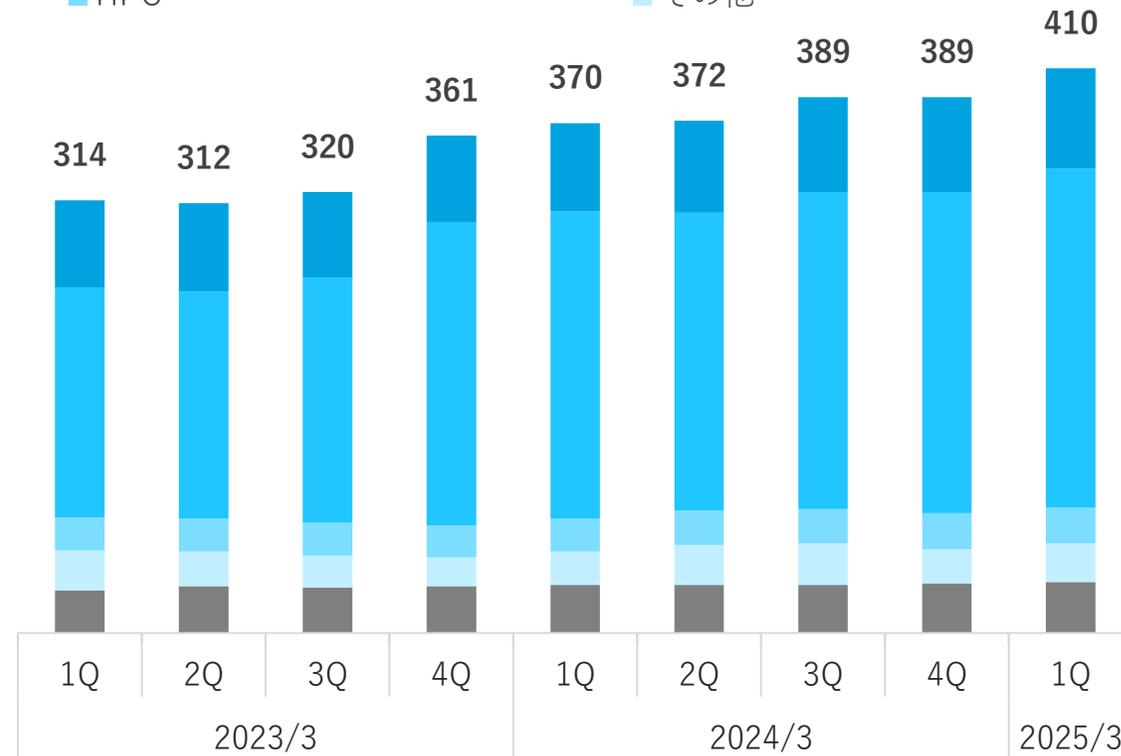
販売費及び一般管理費

- その他
- のれん償却
- 人件費
- 販管費率



役職員数 (人)

- メモリ・PC関連デバイス・IoT
- 通信建設テック
- HPC
- その他



前期末と同規模のB/S規模を維持

- 成長のための事業投資資金を確保するため、有利子負債が前期末に比べ約5億円増加
- 商材の確保により、棚卸資産が増加
- 売掛債権及び買掛債務を縮小し、財務内容を整理

連結貸借対照表

	2024/3	2025/3 1Q	前期末比
流動資産	10,749	10,501	97.7%
現預金	4,168	3,927	94.2%
売掛債権	4,691	4,080	87.0%
棚卸資産	1,655	2,023	122.2%
固定資産	719	960	133.6%
資産合計	11,468	11,461	99.9%
流動負債	6,313	6,018	95.3%
短期借入金	3,450	3,570	103.5%
一年以内返済予定 長期借入金	548	628	114.6%
買掛金	1,565	1,283	82.0%
固定負債	1,359	1,613	118.6%
長期借入金	1,190	1,432	120.3%
負債合計	7,673	7,632	99.5%
株主資本	3,419	3,446	100.8%
資本金	100	100	100.0%
利益剰余金	2,537	2,564	101.1%
負債・純資産合計	11,468	11,461	99.9%

売上高については前年同期並みの水準を確保、各段階利益についても計画通りに推移

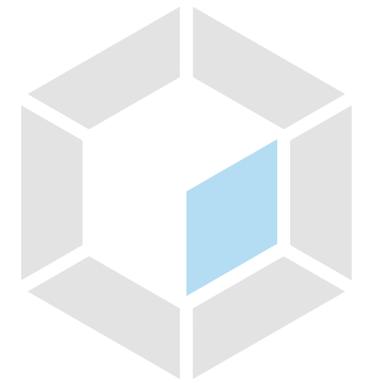
- 売上高については、前年同期並みを確保も、為替の影響及び原価の高騰等により売上総利益については減益
- 事業規模拡大のための人員確保のほか、事業基盤強化のための成長投資などの影響により販管費が増加
- 当四半期の業績としては期初に見込んでいた計画どおりに推移

連結損益計算書

	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前期比
売上高	3,828	3,644	95.2%
売上原価	2,923	2,865	98.0%
売上総利益	905	778	86.1%
販売費及び一般管理費	667	740	110.9%
営業利益	237	38	16.3%
営業外収益	1	4	356.7%
営業外費用	13	10	78.1%
経常利益	224	31	14.2%
税金等調整前当期純利益	224	31	14.2%
法人税等合計	73	△0	△1.0%
当期純利益	151	32	21.7%
非支配株主に帰属する当期純利益	7	5	71.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	143	27	18.9%

03

2025年3月期業績予想



事業規模の拡大に従い、売上高は増収を計画するも、成長投資の継続により販管費が増加、営業利益は減少の計画

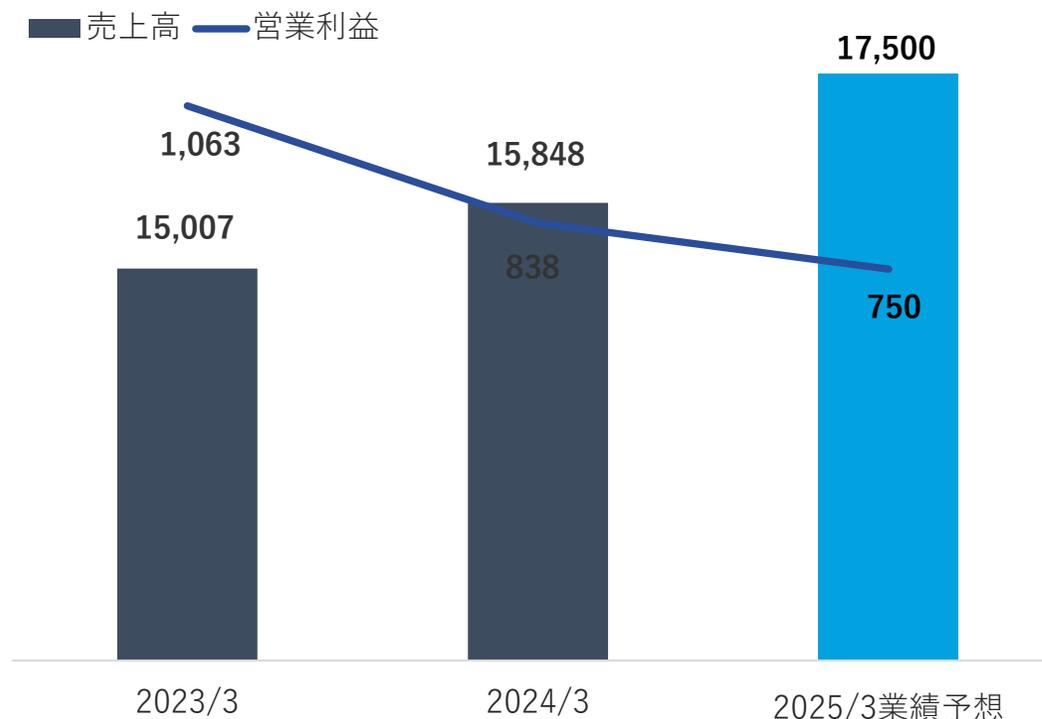
通期予想

売上高 : 17,500 前期比 : 110.4%

営業利益 : 750 前期比 : 89.4%

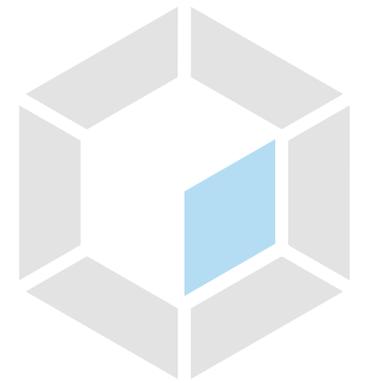
成長事業の拡大や、M&Aによる事業規模の拡大により
売上高は増収を計画

営業利益については、上記M&A及び新規採用による
人員増、及び、社内管理体制の強化を推進するための
投資による販管費の拡大等の要因から、減益を見込む



04-1

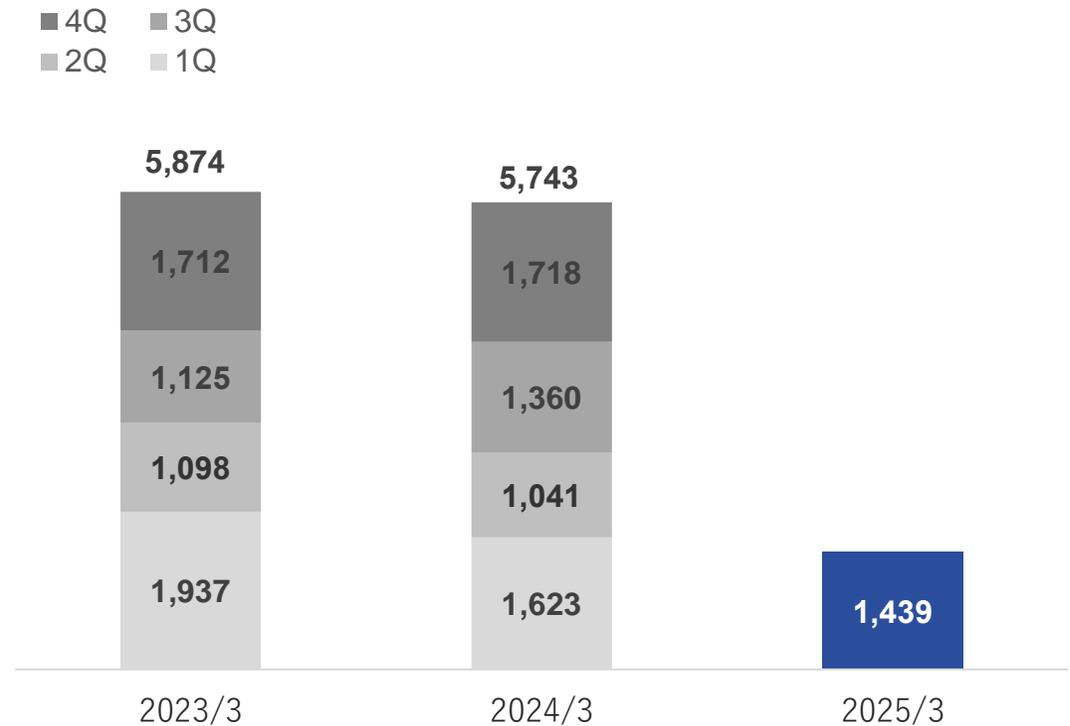
セグメント別概況 (メモリ・PC関連デバイス・IoT)



メモリ販売の低調から減収

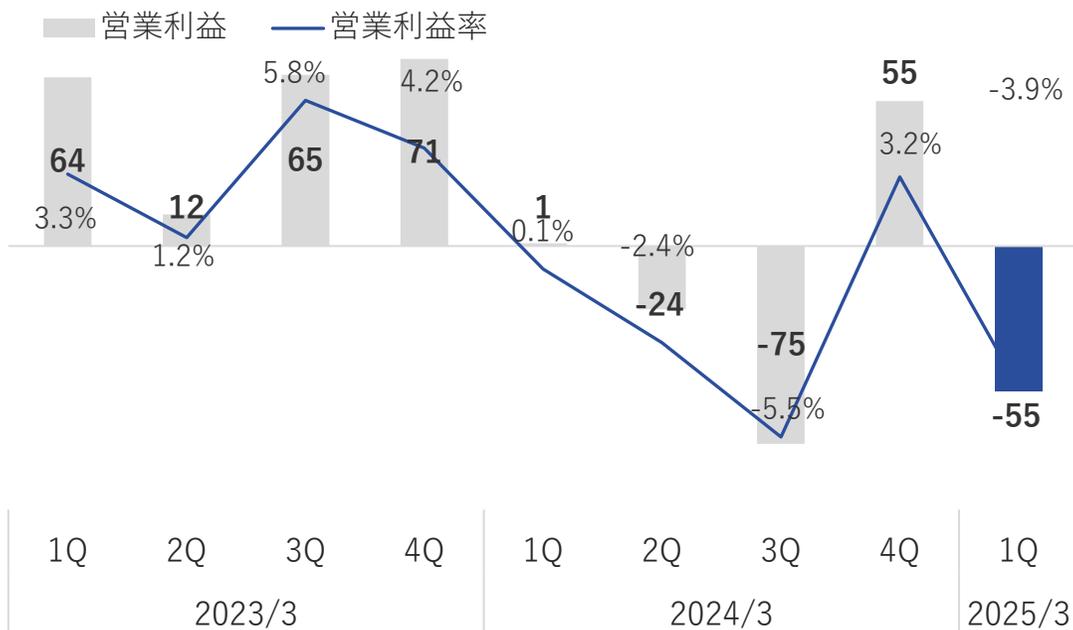
- Windows11への移行を控え、メモリの販売低調
- 経済環境の先行き不透明感等から、各種パソコン関連製品の需要が伸びず、販売が低調
- B2C向け商品の拡充を更に推進し、販路の多様化及び利益の獲得構造の多様化を図る

売上高

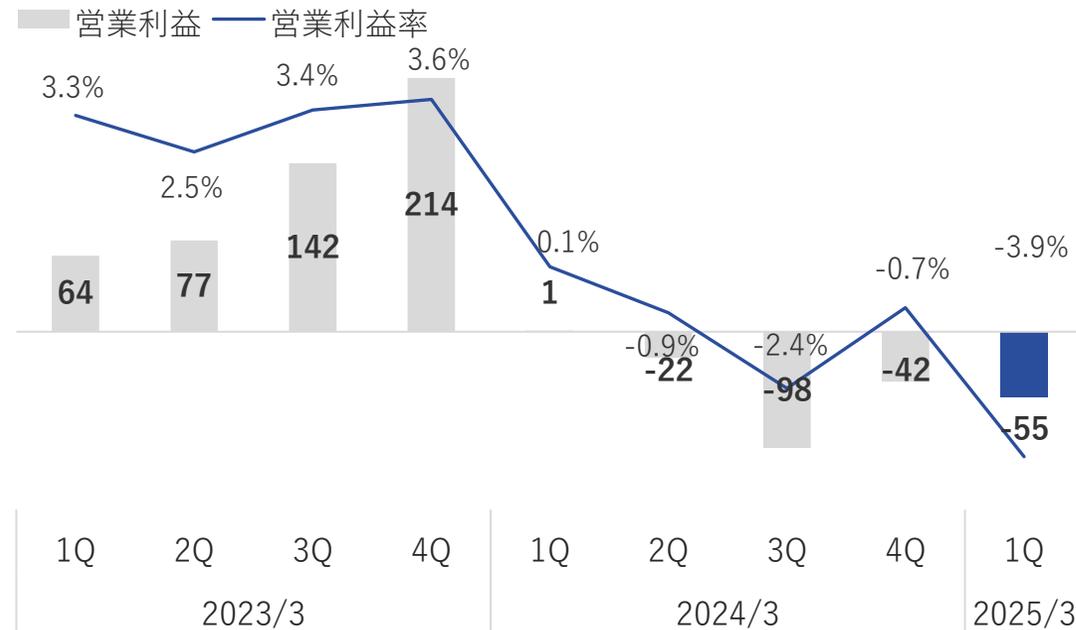


メモリ需要の低調と円安及び原価の高騰から、厳しい環境が継続

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- PC需要の落ち着き及びメモリ価格の高騰、大幅な円安の影響により、獲得利益が減少
- 部材の調達難などにより電子部品の取得原価が高騰。代替品を利用したため、利益率の低下が発生
- 新規商材の検討・調達のための先行投資及び新製品の開発のための販管費の増加等により減益

プレスリリース

2024.07.01

【飲食店の油革命！】業務用フライヤー後付けデバイス 「揚げものGO」を2024年7月1日（月）発売

業務用フライヤー
後付けデバイス
「揚げものGO」

飲食店の油革命！ 揚げ物を美味しく！ 利益アップ！ ベタつき低減！

「揚げものGO」は、油を細分化して熱伝達を向上させることができる技術を搭載した、揚げ物調理補助機です。今お使いのフライヤーに後付けできる為、厨房設備を変更する事なく設置可能です。この油の細分化技術により、食材本来の美味しさを最大限に引き出すと同時に、使用する油の量を大幅に削減することが可能となりました。従来の揚げ物と比較しても、油の吸収を抑えたヘルシーな料理を提供できる点が大きな特長です。

飲食店の油革命

揚げものを美味しく
利益アップ
ベタつき低減

揚げもの
GO

Instagram
TikTok

この革新的なデバイスは
現在お使いの
業務用フライヤーに
取り付けるだけ。

未来の揚げ物を
今日から。

揚げものGO

標準価格 270,000円（税別）

油が長持ちする。
温度を下げると油の劣化は遅くなります。
揚げものGOの活用により同じ揚げ時間で
油の設定温度を1.0℃下げる事が可能です。



▼製品サイト
<https://www.adtec.co.jp/product/agemonogo/>

プレスリリース

2024.05.24

パステルカラーのGaN搭載PD充電器と高速充電対応Cケーブルを発売

「APD-V065C2シリーズ」

65W出力、縦長の直方体スタイルの「APD-V065C2シリーズ」

パステル調のブルーとパープルの2色、そして人気のレッドとブラック（スペースブラック）の4色のカラーバリエーションを備えた65W出力対応PD充電器。市場想定売価2,790円とお買い求めやすい価格で販売開始。



「APD-V045C2シリーズ」

45W出力、立方体スタイルの「APD-V045C2シリーズ」

パステル調のブルーカラーの45W出力対応PD充電器です。洗練されたクリアボディを採用し、GaNを採用することで、45Wの高出力ながらもコンパクトなボディを実現。市場想定売価2,290円と大変リーズナブルな価格で販売開始。



「APC-V1024CC-U4G3 シリーズ」

USB4 Gen3対応USB Cケーブル「APC-V1024CC-U4G3シリーズ」

高速充電の新規格「USB Power Delivery EPR」に対応し、現在主流である最大100Wから2.4倍の最大240W（48V/5A）での電力供給が可能。PD充電器と接続対象機器とを、適正な電圧で接続するICチップeMarkerを搭載。想定売価1,798円（税込）とコストパフォーマンスが高い製品。



「APC-V1010SCC-U2 シリーズ」

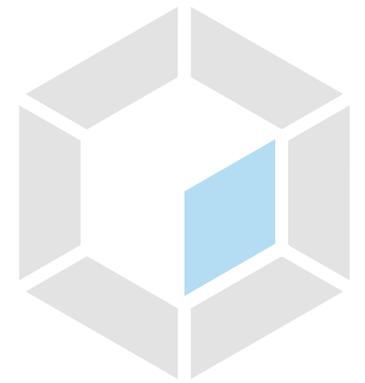
柔らかいシリコン製USB-Cケーブル「APC-V1010SCC-U2シリーズ」

柔らかいシリコン素材の採用によりケーブルが絡みにくく、ケーブルを纏める結束バンドが付属しており、軽量の29gで持ち運び・整理整頓に便利。想定売価998円（税込）で、大変お求めになりやすい価格。



04-2

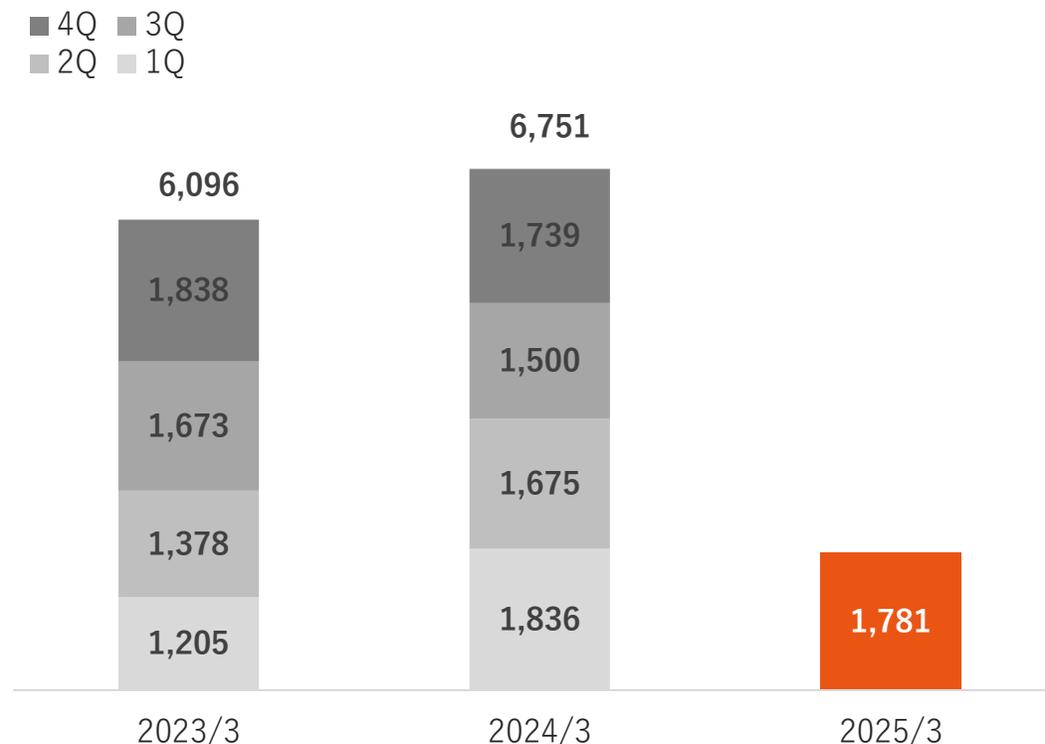
セグメント別概況 (通信建設テック)



大型案件が終了も、新規案件積み上げで前期同Q並みの売上高を確保

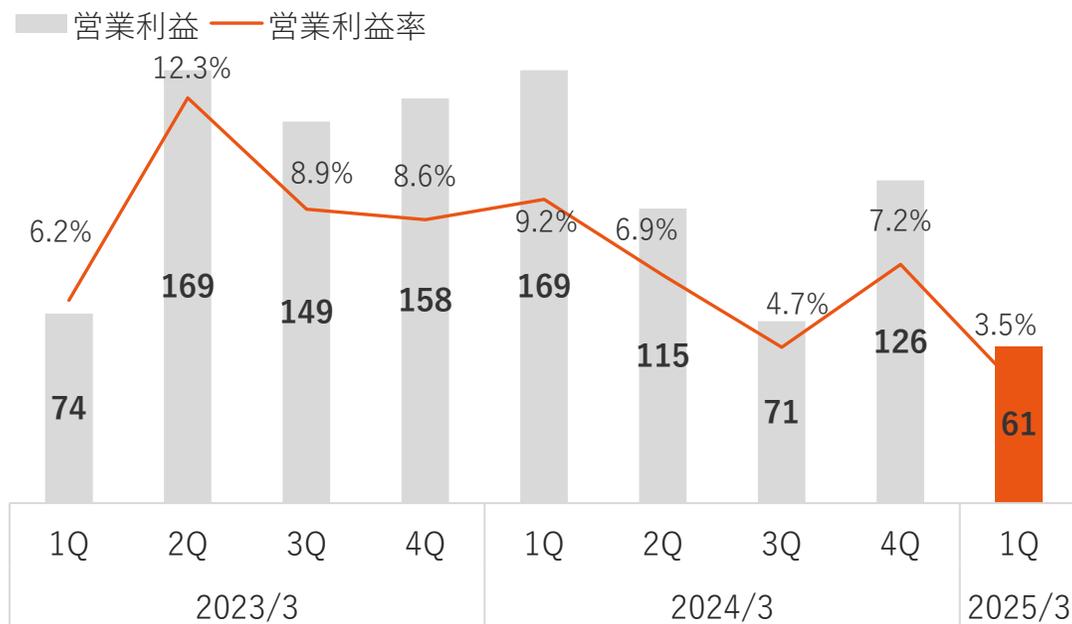
- キャリア3Gサービス終了に伴うマイグレーション工事が概ね終了したことにより売上が減少
- 大手電気通信事業者から受託したインターネット工事関連コールセンターの構築と新規立ち上げによる対応席数の拡大しストック型の売上を確保
- 土木工事業において大規模な再生可能エネルギー関連案件を完工し、収益化
- 既存事業の収益化及びEV関連等新規案件の開拓を更に推進することで、更なる成長を図る方針。なお、4月付で中部地方に強みを持つブランチテクノ社がグループインし、2Qから収益に寄与見込み

売上高

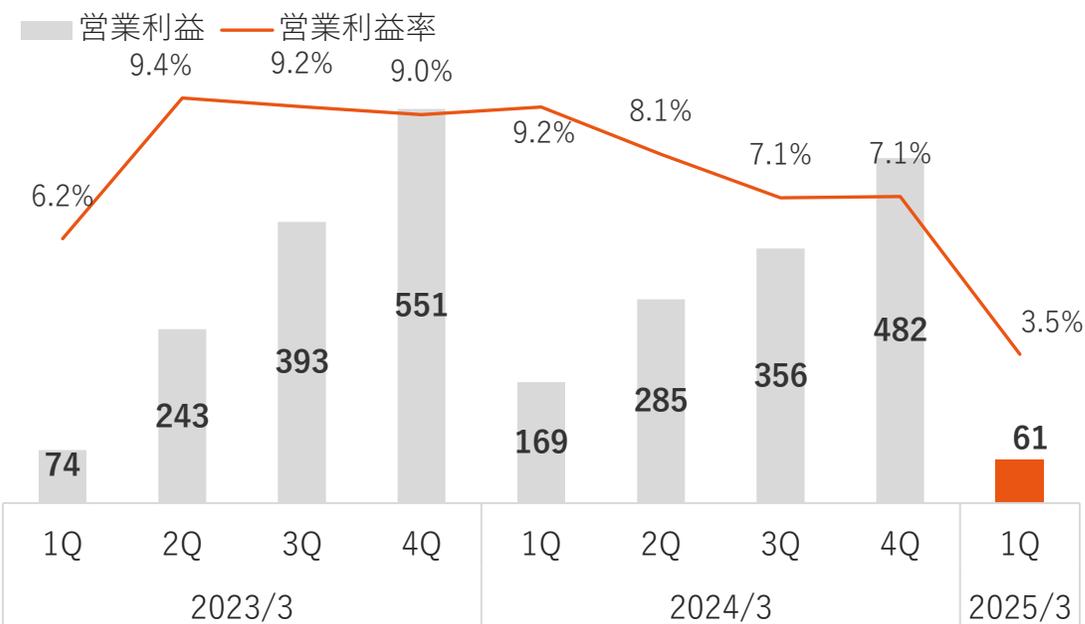


成長投資による販管費等の増加により利益額については減少

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- キャリア3Gサービス終了に伴う関連工事が概ね終了
- 土木工事業において再生可能エネルギー関連大型案件を完工し、収益化
- 広告宣伝の実施及び事業推進体制の拡充等により事業体制の強化を図るための投資に起因し、販管費等が増加

プレスリリース

2024.03.29

M & Aにより株式会社ブランチテクノの株式を取得(子会社化) 中部地方の施工体制強化と『通信建設テック[®]』による業容拡大を狙う

- ・中部地方全域の施工体制（リソース拡充、現場力強化、拠点増加）強化と、バディネットの『通信建設テック[®]』を活用した業容拡大を狙う。
- ・ブランチテクノ社の保有する大手通信キャリアの主要な元請工事業者としてのノウハウを新たに加え、セグメントの事業領域の更なる拡大を目指す



会社名 : 株式会社ブランチテクノ

代表者 : 代表取締役 杉浦 新介

所在地 : 愛知県名古屋市中村区名駅5丁目21番8号

事業内容 : 携帯電話基地局工事を中心とした工事事業

資本金 : 3,000万円

許可・登録番号 : ●一般建築業(般-4)第61499号(2022年7月)
●一般派遣 派23-302697(2018年8月)
●登録電気工事業者愛知県知事登録 第180025号
●ISO9001認定取得ISAQ1376(2022年7月)

プレスリリース 2024.05.15

SNSメディア（note, Wantedly, Facebook）運用を開始 通信建設業界とバディネットを、世の中にもっとオープンに



バディネット社員の好きなMVV+SSとは？
インタビューしてみた



バディネットの〇〇事業を調査してみた。
#サービスロボット導入支援・保守メンテナンス編



「誰よりもプロフェッショナルでありたい。」
バディネット社員が語る、仕事の価値観とは



広報になって半年が経ったので、
ひとりごとを書いてみました



～社員総会2024～
当日のリアルな様子をお届けします！



バディネットの〇〇事業を調査してみた。
#クラウド型AIカメラ設置工事・保守メンテナンス編

なぜか、すごい。
バディネット

これまでにみちよばさんとノブコブ吉村さんを起用したCMや「なぜか、すごい。バディネット」特設ページなどで、クローズドな通信建設業界をオープンにしていく取り組みを行ってまいりましたが、より一層強化すべく、note、Wantedly、FacebookといったSNSメディアを活用し、「通信建設業界とバディネットを、もっとオープンに。」をテーマに様々なコンテンツを発信していきます。

アルコールチェック代行サービスで、サービス提携先を拡大中 より多くの検知器やシステムとの連動が可能に

2023年12月からの道路交通法改正に完全対応

**管理から記録まで
各社に合わせて、もれなく法対応**

パディネットのアルコールチェック代行サービス
低価格・お客様に合わせたカスタマイズが可能!!

- 記録から管理家で全機種対応
- 道路交通法改正に完全対応
- 初期費用 0円
- 24時間 365日対応
- 導入開始は 2週間~

サービス資料 配布中

資料ダウンロード →

- プレスリリース 2023.04.11 株式会社パイ・アールとサービス連携
- プレスリリース 2023.10.23 ナビッドコム株式会社とサービス連携
- プレスリリース 2023.11.8 トリプルアイズ株式会社とサービス連携
- プレスリリース 2023.11.24 株式会社東計電算とサービス連携
- プレスリリース 2024.01.10 株式会社インフォセンスとサービス連携

提携先企業一覧 (2024年2月現在)

PAI-R

ナビッド.com

TRIPLEIZE
Realize Customize Maximize

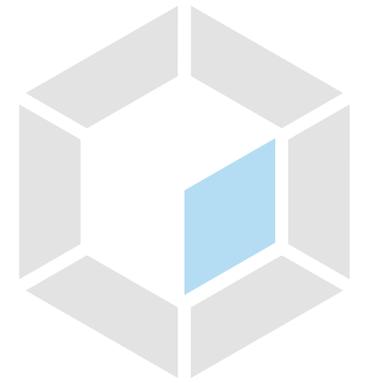
株式会社
東計電算

infosense

引き続きサービス連携先の拡大に向けて取り組み、「どんな検知器でも」「どんなシステムでも」ワンストップ・低コストでアルコールチェック代行が可能なサービスを提供していく。

04-3

セグメント別概況 (HPC事業)

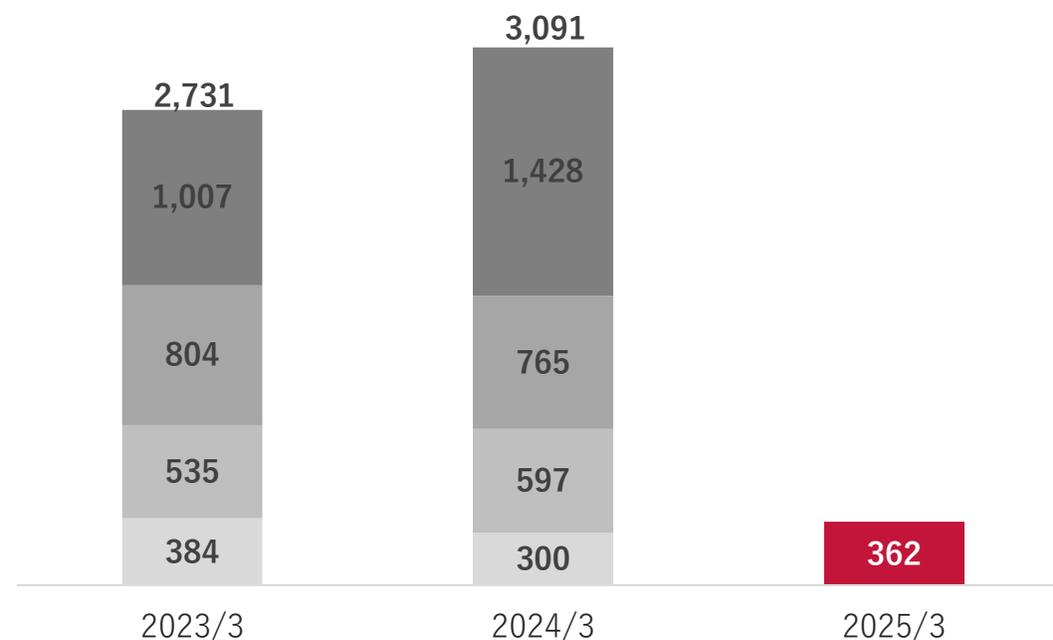


積極的な営業展開により堅調に売上高を確保

- 学会等への参加を推し進め、対面による販売機会を確保することで、さらなる顧客の取り込みに努める
- 個別顧客の需要に応じた製品を投入することで、顧客のカスタマーバリューを高め、成約率の向上を図る

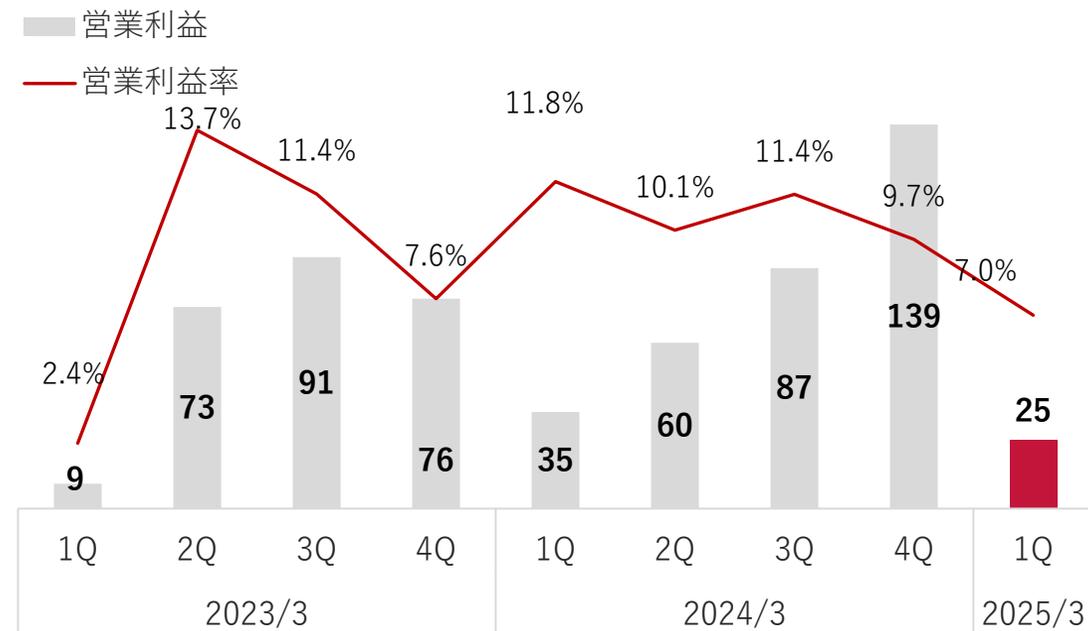
売上高

■ 4Q ■ 3Q
■ 2Q ■ 1Q

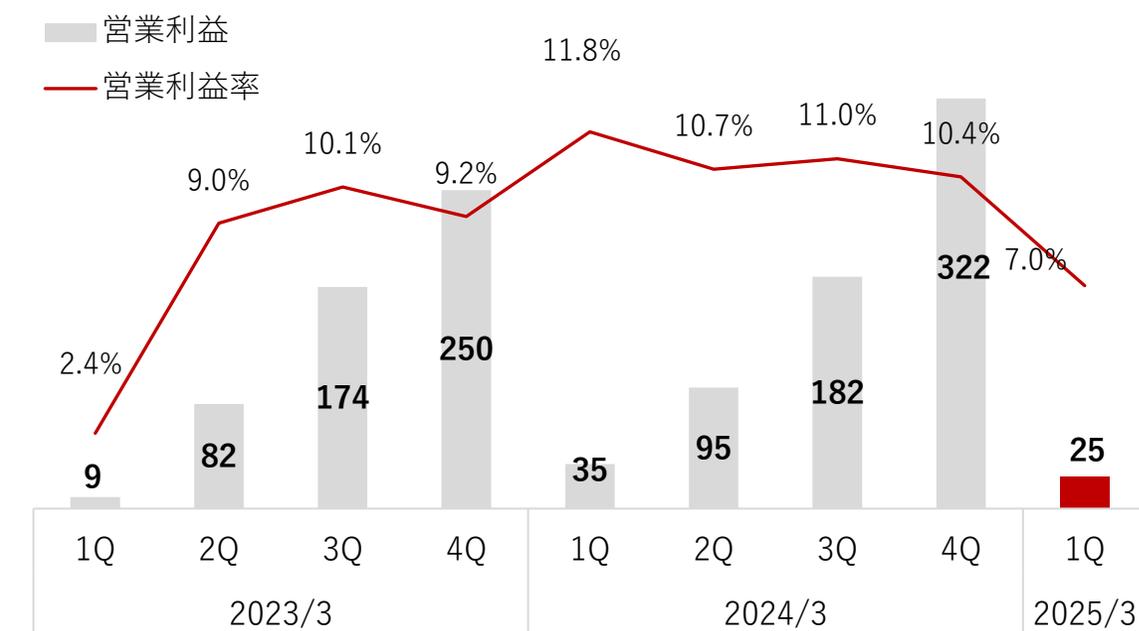


営業利益に関するも堅調に積み上げ

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- コロナ禍及びウクライナ危機による部材の調達難及び原価の高騰並びに円安の影響により、利益率の確保に関し懸念点は存在するものの、部材の先行取得及び付加価値の向上、需要に適応した製品投入を進める事により、顧客のカスタマーバリューを高め、稼得利益の向上を図る
- 学会の再開による対面販売機会が増加、キャンペーンカタログ等の販売ツールの充実を促進し、対面販売による収益機会の拡大を図る

学会・展示会へ参加 順調に対面営業を実施

学会・展示会への参加
【機器展示】

日本航空宇宙学会

2024年4月実施

1st Japan Visualization Symposium (JapanVis 2024)

2024年4月実施

IEEE PacificVis 2024 国際シンポジウム

2024年4月実施

第26回理論化学討論会

2024年5月実施

2024年度 人工知能学会全国大会（第38回）

2024年5月実施

第29回計算工学講演会

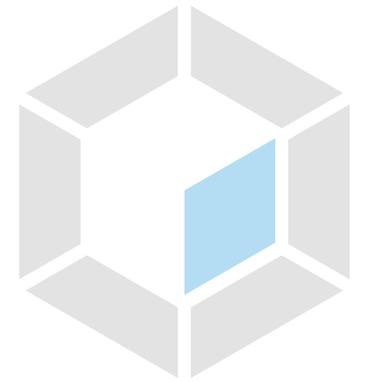
2024年6月実施

第24回日本蛋白質科学会年会

2024年6月実施

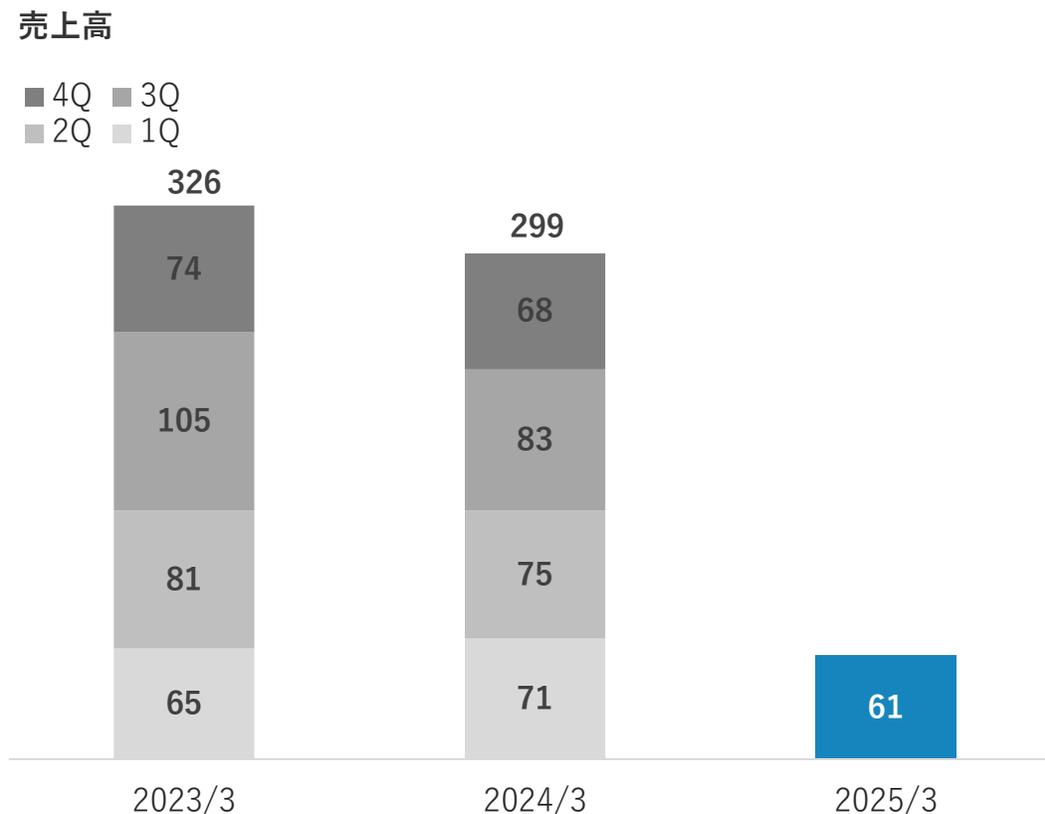
04-4

セグメント別概況 (その他事業－旅館事業－)



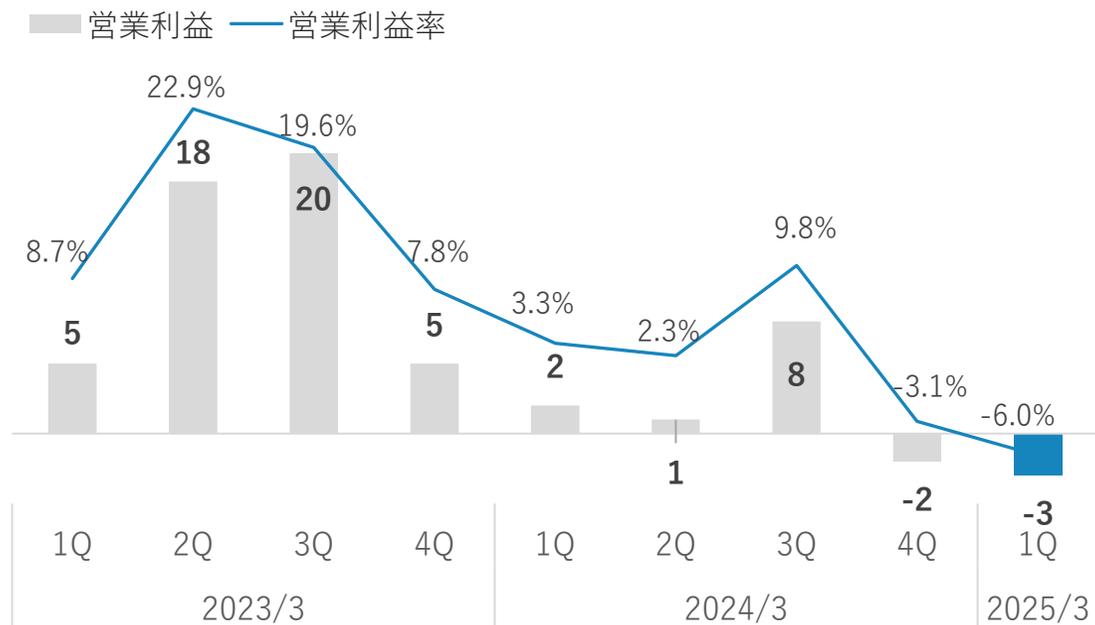
売上高については、前期同Qに比し減収

- 物価高騰、経済環境の不安定さに起因し、新規顧客の獲得が難しい環境
- リピート客の再来が堅調に推移し、収益環境を下支え
- 客単価の上昇、顧客満足度の向上に繋がる施策を強化し、収益環境の安定化に努める
- 昨年に続き今年も猛暑が予想されるため、愛犬用プールを設置する等、猛暑対策を推進

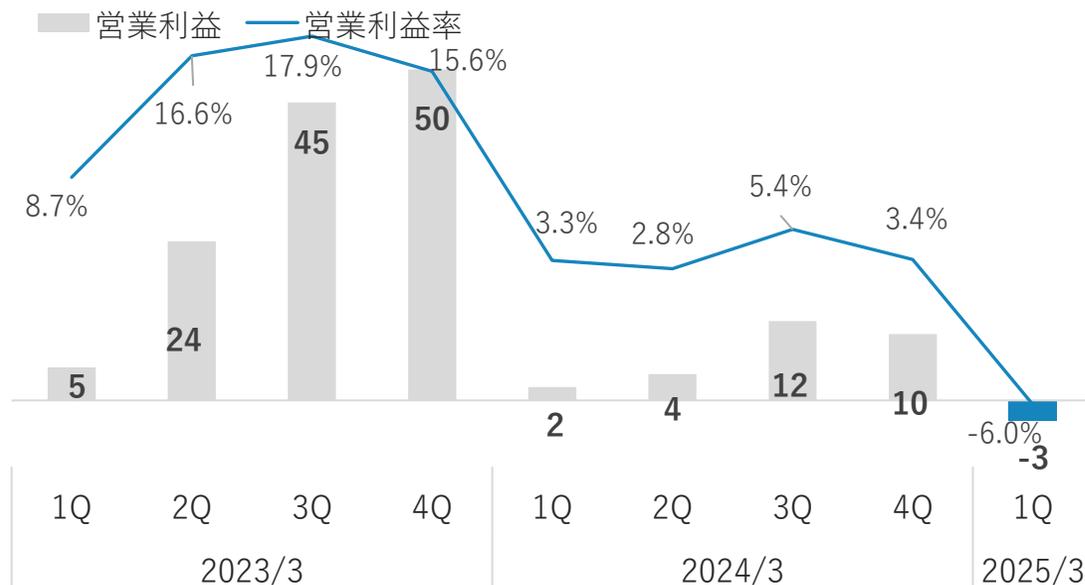


前期同Qに比し減益、猛暑の影響への対策を進める

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 前期に続き今期も厳しい収益環境が継続しており、対策を推進
- 営業施策の強化、設備の改修により顧客満足度の向上を図る
- 追加オプションによる収益機会の多様化、顧客動向に応じた価格プランの適宜見直しにより、収益環境を改善

改修工事を進め、収益性・顧客満足度の向上を推進



露天風呂付きの客室を増室

人気の高い、露天風呂付きの客室を増室
客単価の向上により更なる収益性の向上を期待



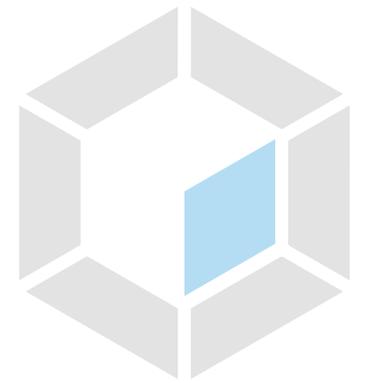
ドッグランをリニューアルし 顧客満足度の向上を図る

屋内・屋外ドッグランの整備・拡張を進め、
利便性を高める事により、顧客満足度の向上を推進



05

参考資料



商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	410名（連結 2024年6月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長 堀 礼一郎 取締役 CFO 管理本部長 五十嵐 英 取締役 管理本部副本部長 富山 理布 取締役 経営戦略本部長 白鳥 俊昭 取締役（社外） 丸山 一郎 取締役（社外） 黒部 得善 取締役（社外） 後藤田 翔 取締役（社外） 中川 英之 常勤監査役 内藤 城次郎 監査役（社外） 上林 三子雄 監査役（社外） 西田 史朗 補欠監査役（社外） 藤浪 努
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、 純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業 （ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバン（現 連結子会社）を買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併
2024.4	株式会社バディネットが株式会社ブランチテクノ（現 連結子会社）を買収	

Business Domain

DXを次のステージへ

先進的なサービスを有するビジネスが集結

AKIBAホールディングスグループは多様なカテゴリーで社会全体のDX推進に取り組み発展させていきます。

